

風水理論と印象評価による風水景観の特性把握 —韓国農村集落における風水景観に関する研究 その18—

都市計画 韓国 農村集落
風水 景観 印象

正会員 ○野村優太* 同 佐藤誠治**
同 小林祐司*** 同 姫野由香****

1 研究の背景と目的

今日一般的に理解されている風水は生活の中の小範囲で用いられるものばかりであるが、その根本にあるものは中国を発信源とする生活空間の選定に用いられた地形と人間の生活を結びつける極めて環境重視の作法である。この環境を重んじる風水を研究することは、周囲の環境を作り変えようとしがちな現代の景観を考えなおす一環となるものであり、意義あることである。

一連の本研究では、風水景観の地形構造や構成要素といった物理的要因に視点を置き、風水景観の特徴の把握を行ってきた。しかしながらこれらの研究は、心理的な評価を目的としていない。よって本稿では、印象評価実験を行い、その結果をもとに風水理論と人々の景観的感覚の関係を明らかにすることを目的とする。

2 研究の概要

2-1 研究対象地

本研究では、前年度に調査を行った安東・榮州に加え、今年度に調査を行った丹陽郡・旌善郡・寧越郡・平昌郡を合わせた6地域を対象地域として選定した(図1)。選定理由は、韓国の風水理論において最も重要視される太白山脈に水源を持っている地域であり、韓国の中でも北側に位置する為、中国から伝来した風水の名残が残っており、住民の風水に対する意識が高いと予想されるためである。



図1 研究対象地域

2-2 研究の方法

第一に風水理論を用いて、各集落の風水的吉凶を判断し、点数化を行う。第二に印象評価実験の結果から各集落の順位付けを行う。第三に第一、第二の結果から風水理論と印象の関係性について分析を行う。

3 風水理論からみる吉凶判断

本章では風水理論を用いて、地形構造の特徴から対象集落の風水的吉凶を判断し、点数化を行う。本研究では景観的観点から分析を行うため、風水理論の中でも視覚的な判断方法である「水局」と「龍法」を用いる。水局では、川の流れ方によって吉凶の判断を行う(図2)。龍とは地勢の起伏のことであり、龍法では、山の起伏具合や整備状況が判断基準となる(図3)。龍法・水局による風水的吉凶の評価点数を表1に示す。

	図	内容	評価点
玉帯水		明堂を取り巻く形の水 腰の帯のように流れる形が理想とされる 主を守り財と富貴に富むとされる	1
金星水城		湾曲し、明堂を環のように抱いている形の水 健康にもよく財をなすとされる	1
木星水城		明堂の前を真っ直ぐに流れる水 勢いよく流れが速ければ無情の水となり、 凶とされる	-1
交割水		穴の前で交わる形の二つの水 子孫が絶える象徴とされ、凶とされる	-1
水星水城		明堂前の曲がりくねった水 社会的な地位が高くなり、財に富むとされる	1
拱背水		穴の後ろを取り巻く形の水 発財が長く続き、富貴に恵まれるとされる	1
倉板水		穴の前の田が徐々に低くなり、穴に向かって 流れてくる水 大いに儲けて財が厚くなるとされる	1
虎頭關		白虎砂が伸びて青龍砂を包む形をしている 明堂から見て、左回りに流れる水 金銭の消費がはげしくなり、凶とされる	-1

図2 水局の種類と評価点

	写真	内容	評価点
活龍		山が一筋一筋、瘤のように起伏があり美しい稜線を描いて連なる山気が充足した龍（山）とされる	1
死龍		起伏をつくり連ることなく、稜線が直線的になっている山気が十分ではない龍（山）とされる	-1
騎龍		陰宅や陽宅が頂上に立っている山、もしくは稜線の上に人工物が乗っている山子孫は皆果て、後代は途絶えたとされる	-1
赤龍		開墾整理された山や、山道を通された状態の山、もしくは土砂崩れや地震で山の一部が崩れている状態の山明堂は非常に凶であるとする	-1
平地龍		平地の一つに出来あがる高く突き出た山宝箱や宝珠、長者の象徴とされる	1

図3 龍法の種類と評価点

表1 風水吉凶判断による評価点数

集落	龍法												合計点数
	活龍	赤龍	玉帯水	玉帯水(加点)	虎頭明堂	板水	交刺水	金堂水	木堂水	水堂水	水堂水	水堂水	
A	1	-1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
B	1	-1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
C	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
D	1	-1	0	0	0	0	0	0	-1	0	0	-1	
E	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
F	1	-1	1	0	0	0	0	-1	0	0	0	0	
G	0	0	1	0	0	1	0	-1	1	0	0	2	
H	0	0	1	0	-1	1	1	0	1	0	0	3	
I	0	-1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	3	
J	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	5	
K	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3	
L	0	-1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	5	
M	0	-1	1	0	0	1	0	-1	1	0	0	1	
N	0	-1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	4	
O	1	0	1	0	0	0	0	-1	1	0	0	2	
P	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	4	
Q	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	

4 集落の印象順位

4-1 印象評価実験の方法

本章ではパノラマ写真を用いた一対比較法による印象評価実験を行い、集落の印象順位を決定する。一対比較法とは、官能評価によって比較したい試料が3つ以上あるときに、試料を2つずつ比較する分析方法である。被験者は大分大学の学生93名である。

4-2 集落の順位の算出

一対比較法による被験者の評価結果を表2に示す。この表の[A, B]のセルの36という数は「AとBを比較してAの方が美しいと評価した人数」である。

表2 評価結果の単純集計

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	合計
A	36	36	74	28	58	57	25	27	34	46	38	43	68	44	61	44	719	
B	57	41	69	44	73	66	47	43	53	53	55	70	78	63	79	56	953	
C	57	46	62	26	66	62	33	49	39	46	54	59	75	35	71	51	831	
D	19	24	31	17	37	21	8	14	24	27	19	29	46	15	53	19	403	
E	65	49	67	76	57	60	33	40	39	50	42	59	65	44	78	56	880	
F	35	20	27	56	36	35	19	16	27	45	33	42	47	41	43	35	557	
G	36	27	31	72	33	58	11	18	35	40	42	47	66	35	65	25	641	
H	68	46	60	85	60	74	82	38	45	54	42	54	67	65	73	60	973	
I	66	50	44	79	53	77	75	55	30	48	40	50	70	47	67	45	896	
J	59	39	54	69	54	66	58	48	63	51	39	59	58	50	59	52	878	
K	47	40	47	66	43	48	53	39	45	42	23	41	45	49	64	45	737	
L	55	38	39	74	51	60	51	51	53	54	70	59	55	40	59	48	857	
M	50	23	34	64	34	51	46	39	43	34	52	34	48	23	68	30	673	
N	25	15	18	47	28	46	27	26	23	35	48	38	45	24	40	26	511	
O	49	30	58	78	49	52	58	28	46	43	44	53	70	69	63	43	833	
P	32	14	22	40	15	50	28	20	26	34	29	34	25	53	30	20	472	
Q	49	37	42	74	37	58	68	33	48	41	48	45	63	67	50	73	833	
合計	769	534	657	1085	606	931	847	515	592	609	751	631	815	977	655	1016	655	

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生

** 大分大学名誉教授 工学博士

*** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 准教授・博士(工学)

**** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助教・博士(工学)

この結果を用いて以下の手順で順位の算出を行った。①表2の結果を全被験者数である93で除して選択率を算出する。②選択率から標準正規分布の逆関数を求め、各対象の尺度値を算出する。求めた尺度値を直線上に表し、配点したものを図4に示す。

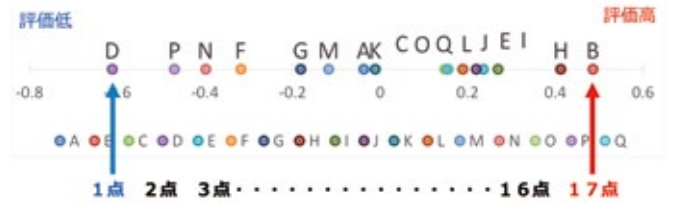


図4 印象評価実験による集落の順位と評価点数

5 風水理論と印象評価の関係性

風水的吉凶判断に基づく評価と印象評価実験の結果をもとに、風水理論と印象評価の関係性について分析を行った。17集落の全データを用いて単相関分析を行った結果、相関係数は0.449であった。また観光地化されていた2集落を除いた15集落で単相関分析を行った結果、相関係数は0.721となり、高い相関が見られた。このことから、風水的に地形が良好な集落は景観的な評価が高くなる可能性があることが明らかとなった。また、観光地を除いた場合に高い相関が見られたことから、単純に風水的に地形が良好なだけでは景観的な評価が高くなるとは言えず、人の手が加えられ時代と共に成長発達が可能な風水集落ほど景観的な評価が高くなる可能性があると考えられる。



図5 観光地化されていない集落（左）とされている集落（右）の例

6 総括

本稿では第一に風水理論を用いて、地形構造的な特徴から対象集落の風水的吉凶を判断し、点数化を行った。第二にパノラマ写真を用いた一対比較法による印象評価を行い、集落の印象順位を決定した。第三に第一、第二の結果から風水理論と印象の関係性について分析を行った。その結果、高い相関が見られ、風水的に地形が良好な集落は景観的な評価が高くなり可能性があることが明らかとなった。また、観光地を除いた場合に高い相関が見られたことから、単純に風水的に地形が良好なだけでは景観的な評価が高くなるとは言えず、人の手が加えられ時代と共に成長発達が可能な風水集落ほど景観的な評価が高くなる可能性があると考えられる。

【参考文献】

1) 呉佳綺・山道帰一：「完全定本[実践]風水地理大全」河出書房新社

* Graduate Student, Graduate School of Oita Univ.

** Prof. Emeritus, Oita Univ., Dr. Eng.

*** Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng.

**** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng.